

怖い「らいさま」と 上手につきあおう民俗

宇都宮の「雷信仰」と平出雷電神社

宇都宮市は雷の多い土地。雷に関わる習俗も残っています。また平出町の雷電神社は、雷の神様を祀っています。今回は雷と雷電神社にまつわる歴史習俗と、4月に企業の社会貢献活動として奉納されたばかりの風神雷神図をご紹介します。

栃木県の夏の風物詩のひとつとも言える「雷」。とりわけ宇都宮市は「雷都」と呼ばれるほど、雷が多い場所です。雷は時に人命を奪い、火災を発生させ、雷による突風や雹は農作物に甚大な被害をもたらします。その一方で、恵みの雨をももたらしてくれます。栃木県内では、雷を「らいさま」と尊称をつけて呼ぶ習わしがあります。雷神を祀る神社や雷にまつわる信仰や言い伝えが多くあるのも栃木県ならではです。

宇都宮市平出町に鎮座する雷電神社も、そんな雷の恩恵と災害に対する防除や降雨祈願に霊験あたらかな神社として、古くより宇都宮市東部一帯に住む人々から篤い信仰を受けています。その歴史は古く、仁和2（886）年、京都の賀茂別雷神社（上賀茂

もまた雷電神社ならではの風習です。また近年では、本格的な雷の季節前の6月になると、落雷除けを願う電気関係の仕事をしている方が参拝に訪れています。雷がもたらす恵みの雨が大地を潤すことを祈る――雷電神社は、雷とともに暮らしてきた宇都宮を物語る神社なのです。



参道で梵天をゆらす(写真提供:宇都宮伝統文化連絡協議会)



平出雷電神社



井上文太画伯の力作「風神雷神図」



国内だけでなく海外でも人気が高い、井上文太画伯

(株)井上総合印刷が 平出雷電神社に「風神雷神図」を奉納

奉納は伝統・文化を守る 地域貢献活動

4月24日（火）午前10時に宇都宮商工会議所大会議室で、(株)井上総合印刷の井上光夫会長から雷電神社氏子総代に、風神雷神図が奉納されました。

宇都宮市に今も根強く残る「雷信仰」、そして地域の信仰を集め人々から愛される平出町の雷電神社。こうした伝統習俗を守り、新しい伝統を創るための地域貢献活動です。

この風神雷神図は、井上会長が画家の井上文太さんに依頼して制作されたもの。長さ4メートルに及ぶ2枚の掛軸に、風神と雷神が対になって描かれています。

井上画伯は日本画や洋画、イラストレーション、キャラクターデザインなどを幅広く手がける作家です。日本的な風景などをモチーフにすることが多く、海外での人気も高い井上画伯の作品は、フランスのポンピドゥー・センターやアメリカのホイットニー美術館にも収蔵されています。その一方でNHKで放映された人形劇

神社）から雷の神様「賀茂別雷神社」を迎えて祀ったのが、はじまりとされています。神社参道には樹齢数百年の杉や、天保年間に奉納された石灯籠や鉄柱赤灯籠が、また境内には樹齢三百年余の「大老木・夫婦杉・白樫」が立ち並び、田園風景が広がる平出地区の鎮守にふさわしい景観を見せています。

雷電神社は一年を通じていくつものお祭りを行います。中でも4月第3日曜日のお祭りと7月第4日曜日の夏の大祭(梵天奉納神事)は、参拝者などで大いに賑わいます。4月の例祭では、個人や各地の雷電講の代表者が参拝に訪れ、風除けのお札を受ける習わしがあります。お札を受け取った家では、これを神棚に供えたり戸口に貼るなどして雷がもたらす被害を除け、五穀豊穡を願います。また最近では、電気関連会社の参拝も多く、雷除けの神札が海外にまでいつます。

そして7月の梵天奉納神事では、豊年祈願として、長さ15メートルほどの根っこ付きの孟宗竹の先に赤や白のビニール紐を房状に飾りつけた大人用梵天2本の奉納が行われます。「よいしょ、よいしょ」のかけ声で梵天をかつき、参道を行きつ戻りつしながら、途中で梵天を上下にゆらします。そして梵天を神社に奉納した後、境内のご神木に梵天を縛り付けるのです。当日はほかに子ども神輿の奉納やお囃子の演奏があり、境内は終日賑わいます。

かつて雷電神社では、日照りが続く「お水借り」と呼ばれる雨乞いの風習が行われていました。境内東端の台地と低地の境にある湧水から水もらい受け、各々の田んぼに水を注ぎ、呼び水にしたということです。これが完成、さっそく1対の掛軸として表装し、この日の奉納式となりました。

当日は雷電神社の禰宜と氏子総代が出席、掛軸を天井からかけてお披露目をするともに、井上会長と井上加容子社長から額に入れたレプリカが氏子総代に手渡されました。

井上会長はあいさつで絵を依頼した経緯を説明。「先代宮司とは、雷電神社を今以上に栄えさせたいという話をしていました。その後、自社工場を平出工業団地に設けた縁もあって、地域や神社への想いもいっそう強くなり、何とか地域への恩返しをしたいと考え、やっとこの度の風神雷神図奉納となりました」と話しました。この日の奉納を受けて、氏子総代の高橋安雄さん、南木伸さんは「神社とも相談しながら、地域文化のために活用したい」と話しました。また神社を代表して出席した禰宜の福田富弥さんは「大切なものなので、収蔵の方法なども含め、井上会長と打ち合わせしながら、地域のために活かしていきたい」と抱負を語りました。

伝統にのつったテーマ、構図でありながら、現代的な手法も見えて取れる、親しみやすい風神と雷神。今後はさまざまな形で地域の人々の目にもふれることが期待されます。



井上会長から雷電神社氏子総代に「風神雷神図」を奉納

「地域社会への恩返し」と話す井上会長
3年越しの悲願がかなって4月初めに作品